

ビジョンを語る会（福崎町） 主な意見

- ・人口減少下で消防団員の確保が困難（活動維持のため女性消防団の活用も検討中）
- ・消防団の消防車や装備の性能が上がってきており、更新するのに費用がかかる（大半を村で負担）
- ・男女共同参画が進み、女性が一人で生きていけるようになると、結婚しない・子どもを産まない人が増えるため、人口も増えない。
- ・福崎町は、町域が狭く行き届いているところが良い(財政的に合併しなくて済んだ)
- ・子育て支援は、親が気安く相談できる場所づくりが必要
- ・福崎工業団地の工場が町外に移転しないよう町として支援が必要（建替時・設備更新時の代替地の準備等）
- ・地縁者でなくても住めるよう新規居住者エリアの拡大が必要
- ・農業では、名産のもちむぎを基盤に6次産業化を進めたい
- ・農業主体の福崎町でも若者の農家離れが進み、耕作放棄地が増えているため将来が不安
- ・町を出て行った人は盆や正月には帰ってこないが、祭りには子どもを連れて帰ってくる（汗をみんなで流す遊びが地域活性化につながる）
- ・新規居住者や外国人が増え、地域のつながりが薄くなることで、困っている人が見えにくくなっている（民生委員として悩ましい）
- ・コロナ禍で祭りや伝統行事等がすべて中止になり、地域での触れ合いの機会がなくなった（来年も再来年も続くと今まで築き上げてきたものが崩れ去り、地域は持たない）
- ・少子高齢化で農業の担い手がいがないため、草が生えっぱなしの放棄水田が増え、地域の景観が損なわれていくことを危惧
- ・地域のコミュニケーションの場づくりが大事（コロナ禍でコミュニケーションがとれないとギスギスし、ちょっとしたことでトラブルに）
- ・地域ぐるみでの子育て・子どもの見守りが困難になっている（最近の子どもはゲームばかりで外に出ないため、どこの子どもか分からない）
- ・祭りは世代を超えた縦の付き合いができる場（地域やそこに住む人とのつながりができると愛着がわき、人口流出も減るのではないか）
- ・市街化調整区域を市街化区域に見直すことで住宅を建てるエリアを増やすべき（地元の家を建てる場所がなく、町外に出て行く人がいる）
- ・福崎が好きで残りたい思いはあっても、生活していくためにはやはり仕事の住むところも必要
- ・出て行く若者を無理に引き留めるのではなく、外からの人たち（外国人含む）を受け入れ、仲間に取り込むことも大事（付き合いの仕方次第）